

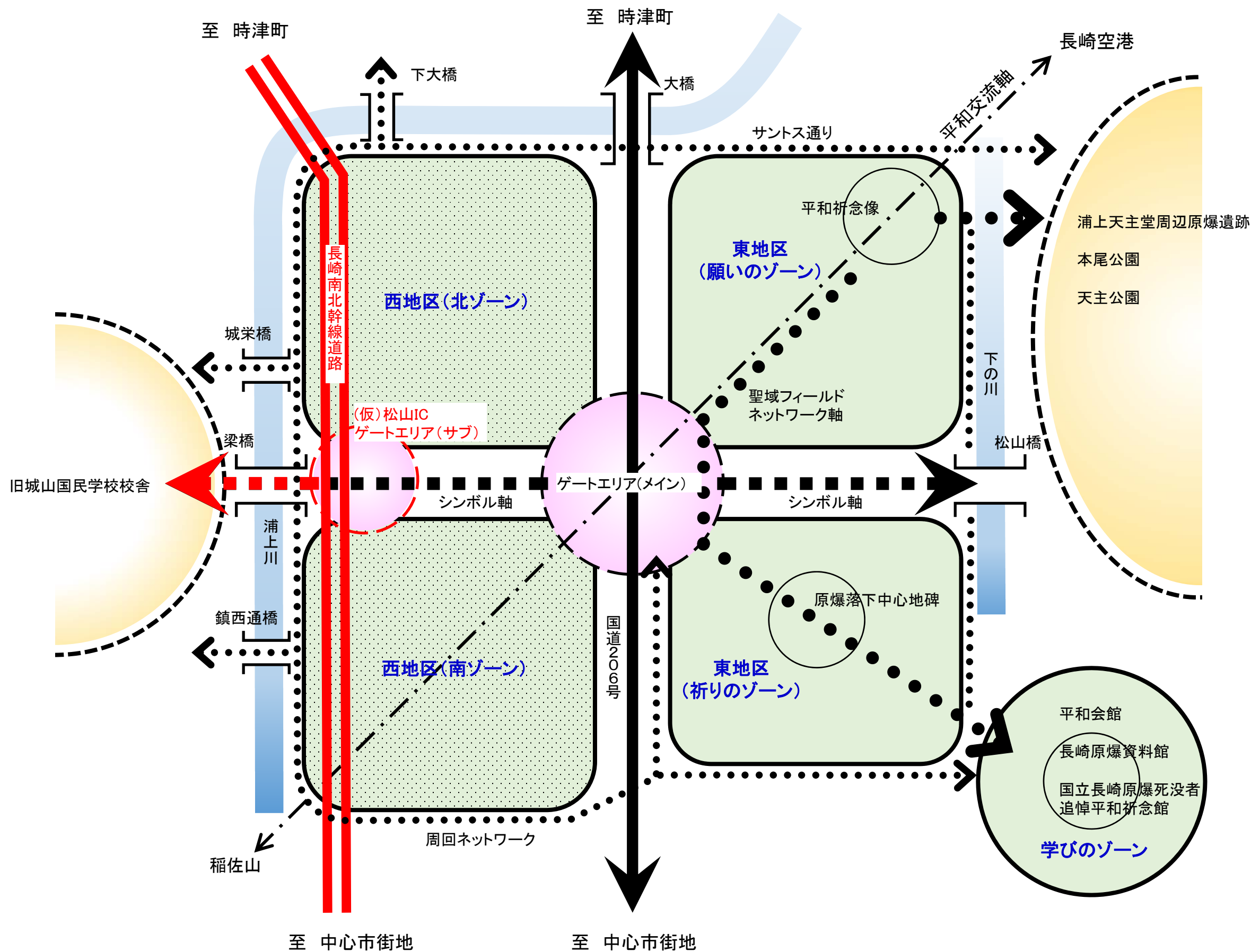
動線、景観形成、緑化の考え方(案)

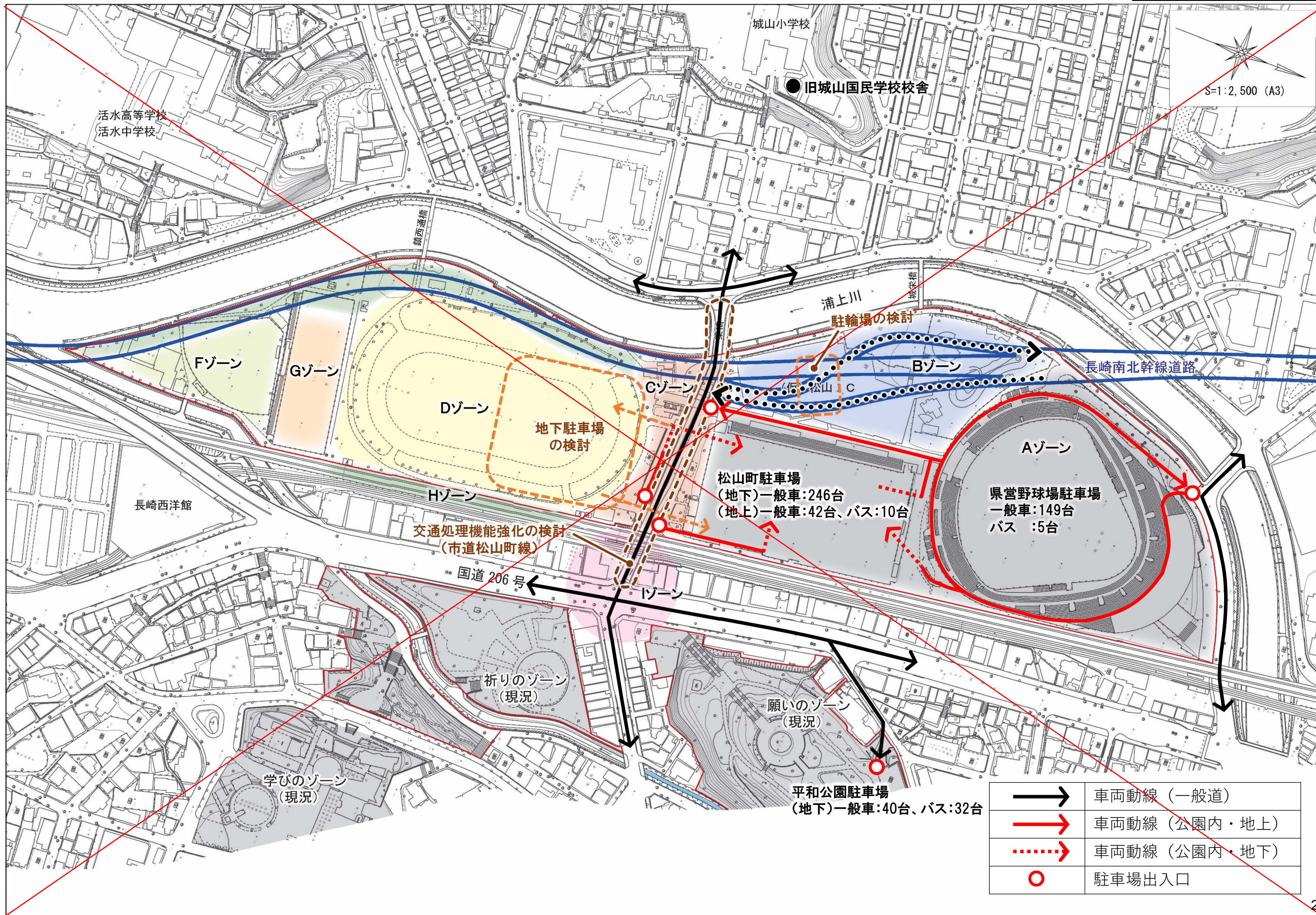
1 動線の考え方(案)

(1) 平和公園全体のネットワークの考え方(案)

基本的な考え方

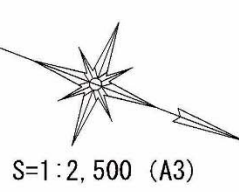
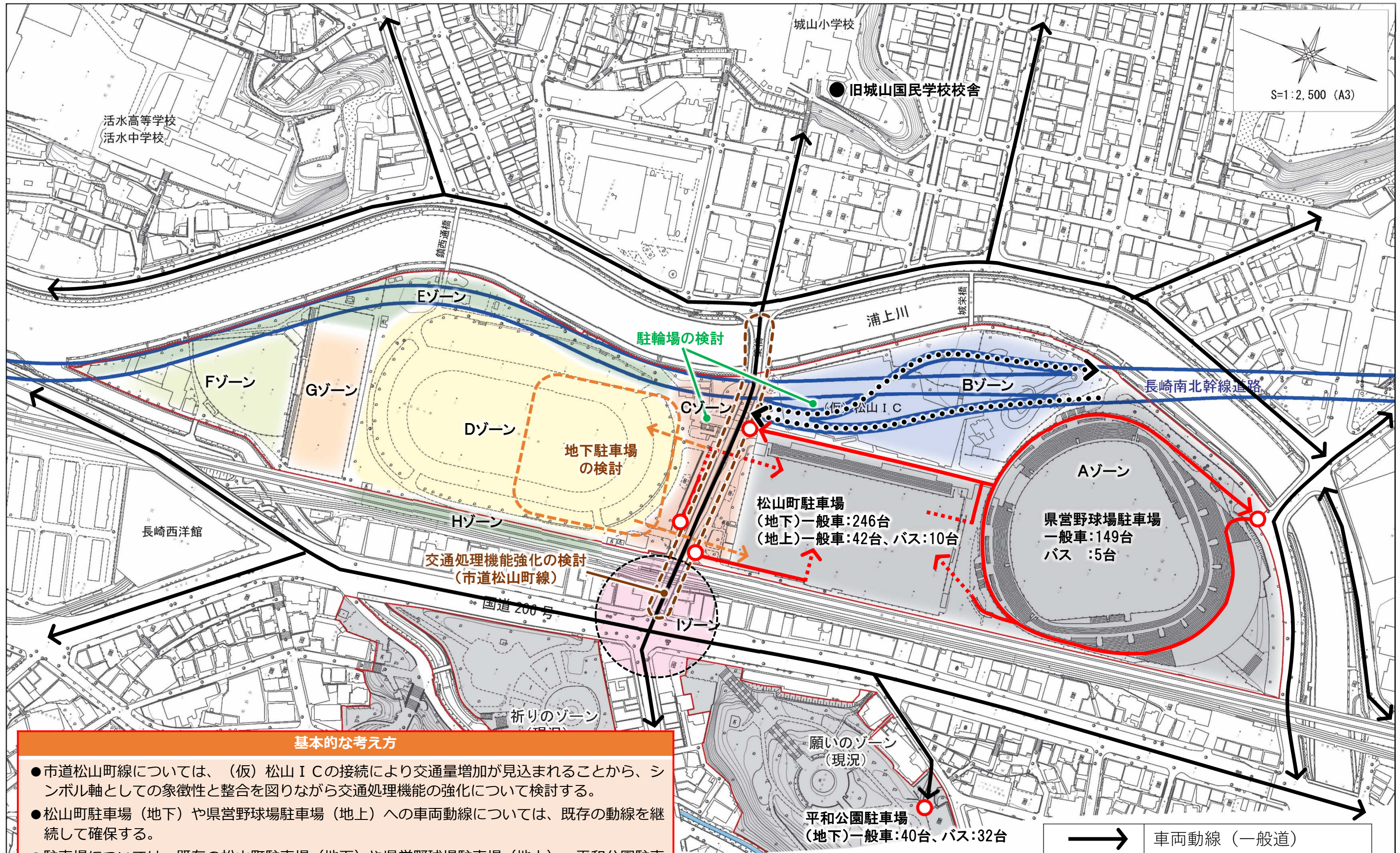
- 平成6年の再整備基本計画を踏襲し、平和公園の各ゾーンの中心となる部分を「ゲートエリア(メイン)」、東西地区を結ぶ市道を「シンボル軸」、各ゾーンや周辺の平和関連施設との動線を歩行者の「周回ネットワーク」として位置付ける。
- ゲートエリアについては、長崎南北幹線道路の整備により新たに設置される(仮称)松山IC周辺をサブのゲートエリアとして位置付け、新たな玄関口としての機能強化を図る。
- シンボル軸については、東西地区のつながりだけでなく、旧城山国民学校校舎までの軸線を位置付け、平和学習の一端を担う施設とのネットワークを形成する。





(2) 車両動線・駐車場・駐輪場の考え方(案)

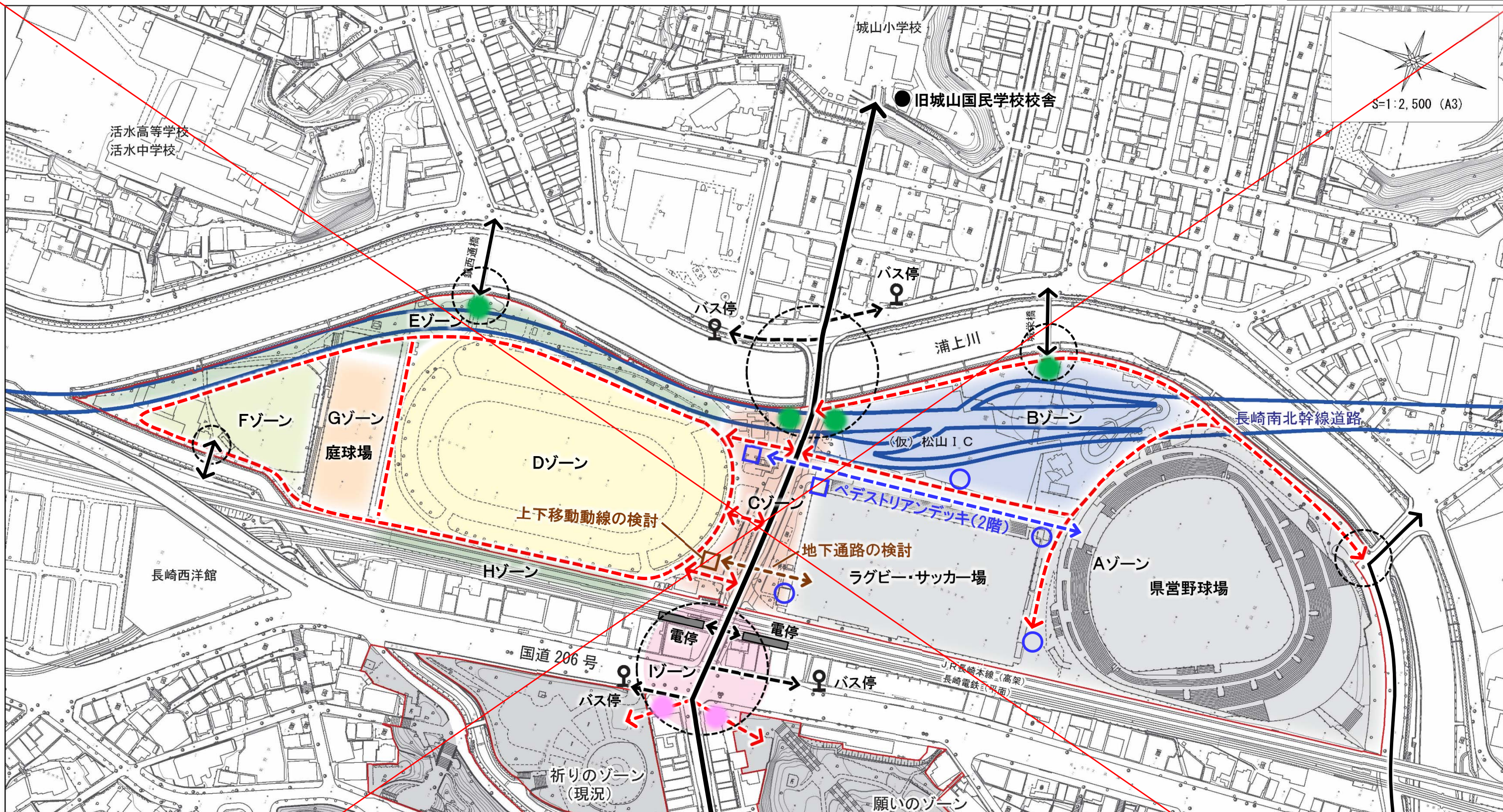
修正(案)



基本的な考え方

- 市道松山町線については、(仮)松山 I Cの接続により交通量増加が見込まれることから、シンボル軸としての象徴性と整合を図りながら交通処理機能の強化について検討する。
- 松山町駐車場(地下)や県営野球場駐車場(地上)への車両動線については、既存の動線を継続して確保する。
- 駐車場については、既存の松山町駐車場(地下)や県営野球場駐車場(地上)、平和公園駐車場を活用することを基本としつつ、長崎南北幹線道路の整備による交通量増加やパークアンドライドなどの需要を見極めながら、Dゾーンに新たな地下駐車場の確保を検討する。
- 駐輪場については、歩行者動線に配慮しつつ、将来の需要を見極めながら、Cゾーン又はBゾーンの高架下空間での確保を検討する。

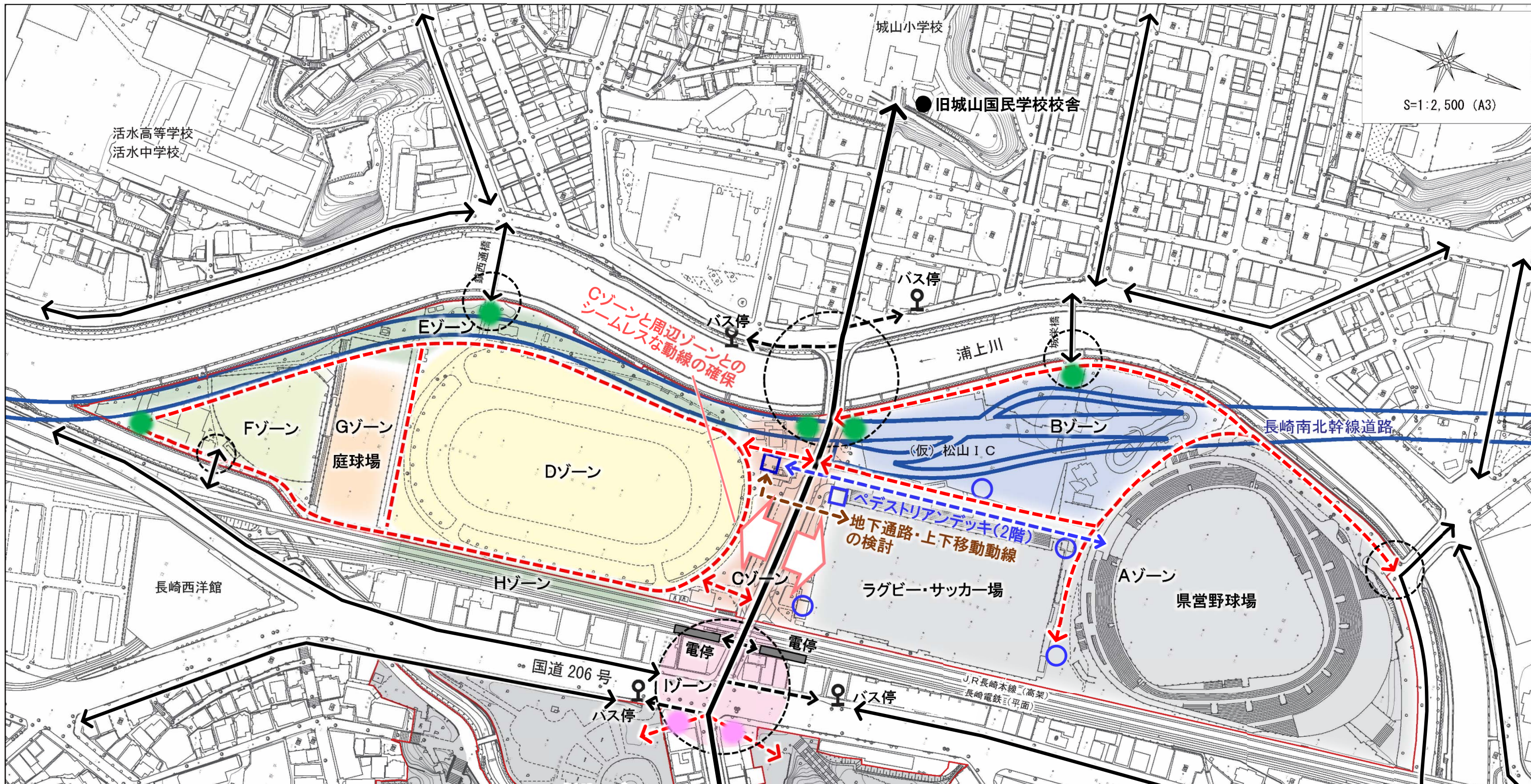
	車両動線(一般道)
	車両動線(公園内・地上)
	車両動線(公園内・地下)
	駐車場出入口



【基本的な考え方】

- 既存動線との連続性を踏まえ、西地区全体を安全・安心・快適に移動できる歩行者動線を確保
- 市道松山町線（Cゾーン）は、ゆとりある歩行空間や公園側（B・D・Eゾーン）へのシームレスな動線を確保
- 浦上川右岸からのゲート部には、たまり空間（橋詰広場）を確保
- 地下駐車場整備の検討に併せ、上下移動動線や既存の松山町駐車場（地下）とを結ぶ地下通路を検討

	歩行者動線（公園外）
	歩行者動線（ペDESTリアンデッキ）
	歩行者動線（公園内・地上）
	上下移動（階段）
	上下移動（階段・EV）
	たまり空間（橋詰広場）
	たまり空間（エントランス広場）



基本的な考え方

- 既存動線との連続性を踏まえ、西地区全体を安全・安心・快適に移動できる歩行者動線ネットワークを形成する。
- 市道松山町線（Cゾーン）は、ゆとりある歩行空間や周辺ゾーンへのシームレスな動線を確保する。
- 浦上川左岸からのゲート部には、たまり空間（橋詰広場）を確保する。
- Dゾーンへの地下駐車場の整備検討に併せ、既存の松山町駐車場（地下）とを結ぶ地下通路や上下移動動線を検討する。
- Fゾーンの南端部には、眺望点を兼ねたたまり空間を確保する。
- Iゾーンの交差点隅切り部におけるたまり空間の確保について検討する。

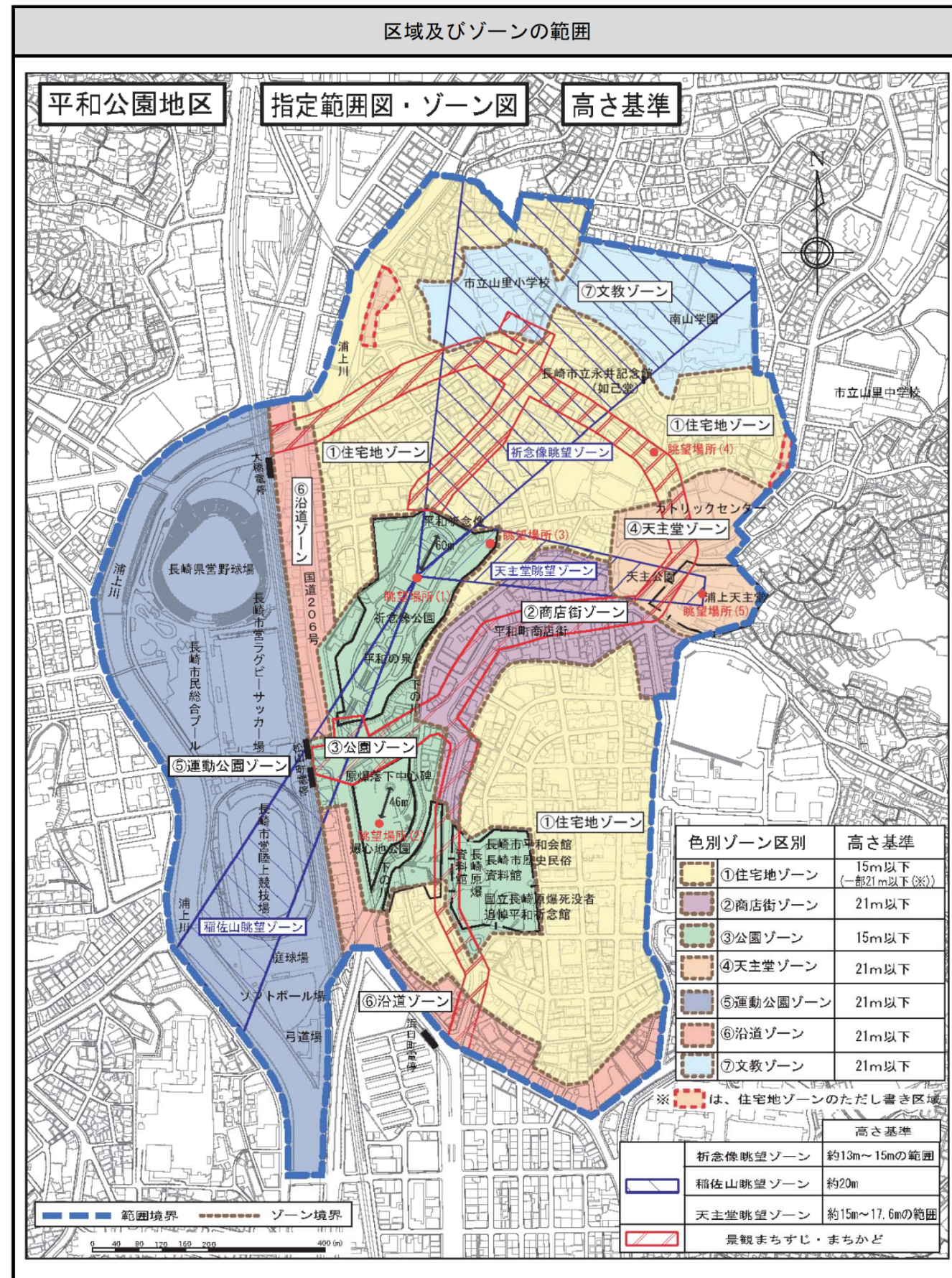
	歩行者動線（公園外）
	歩行者動線（ペDESTリアンデッキ）
	歩行者動線（公園内・地上）
	上下移動（階段）
	上下移動（階段・EV）
	たまり空間（橋詰広場など）
	たまり空間（エントランス広場）

2 景観形成の考え方(案)

新規作成

(1) 平和公園地区景観形成重点地区

平和公園及びその周辺地域は、「平和公園地区景観形成重点地区」に指定されており、景観形成の考え方や、高さ基準が設けられている。



ア 景観形成に関する指針(抜粋)

ゾーン	景観の形成に関する方針
運動公園ゾーン	市民スポーツ、レクリエーションの場として、また緑豊かな憩いの場となる空間を創出する。
稲佐山眺望ゾーン	稲佐山への眺望を保全する。

イ 景観形成基準の基本的な考え方(抜粋)

ゾーン	景観の形成に関する方針
共通(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 祈念像公園、爆心地公園内の聖域としての景観を確保するために、公園周囲の建築物や工作物は公園内から見えないように配慮する。 レンガ壁や緑を意識した色彩計画を行い、原色・高彩度色の使用は避ける。また、経年変化がわかる自然な仕上げ材料や素材の使用を促進する。 建築物の屋根の形状は、眺望として映るまちなみにリズムをもたせた形状とする。 事業所や集合住宅等規模が大きな駐車場や資材置き場は、建物の形状や周辺のまちなみと調和させる。 まちなみに潤いと連続性をつくり、平和のイメージに彩りを添える敷地の緑化を行う。 自動販売機は、聖域である祈念像公園、爆心地公園の隣接地としてのイメージを阻害しないように配慮する。
運動公園ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ゆとりと潤いのある憩いの広場として緑化を図る。 浦上川の水辺空間を活かした公園として保全を図る。
稲佐山眺望ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 稲佐山の印象的眺望を確保するために、建築物や工作物の位置・高さに関心する。

ウ 景観形成基準(高さ基準)(抜粋)

ゾーン	行為の種別・事項	景観形成基準
運動公園ゾーン	建築物又は工作物の新築、新設、増築、改築又は移転	・高さは21m以下とする。
稲佐山眺望ゾーン		・高さは約20.0mとする。

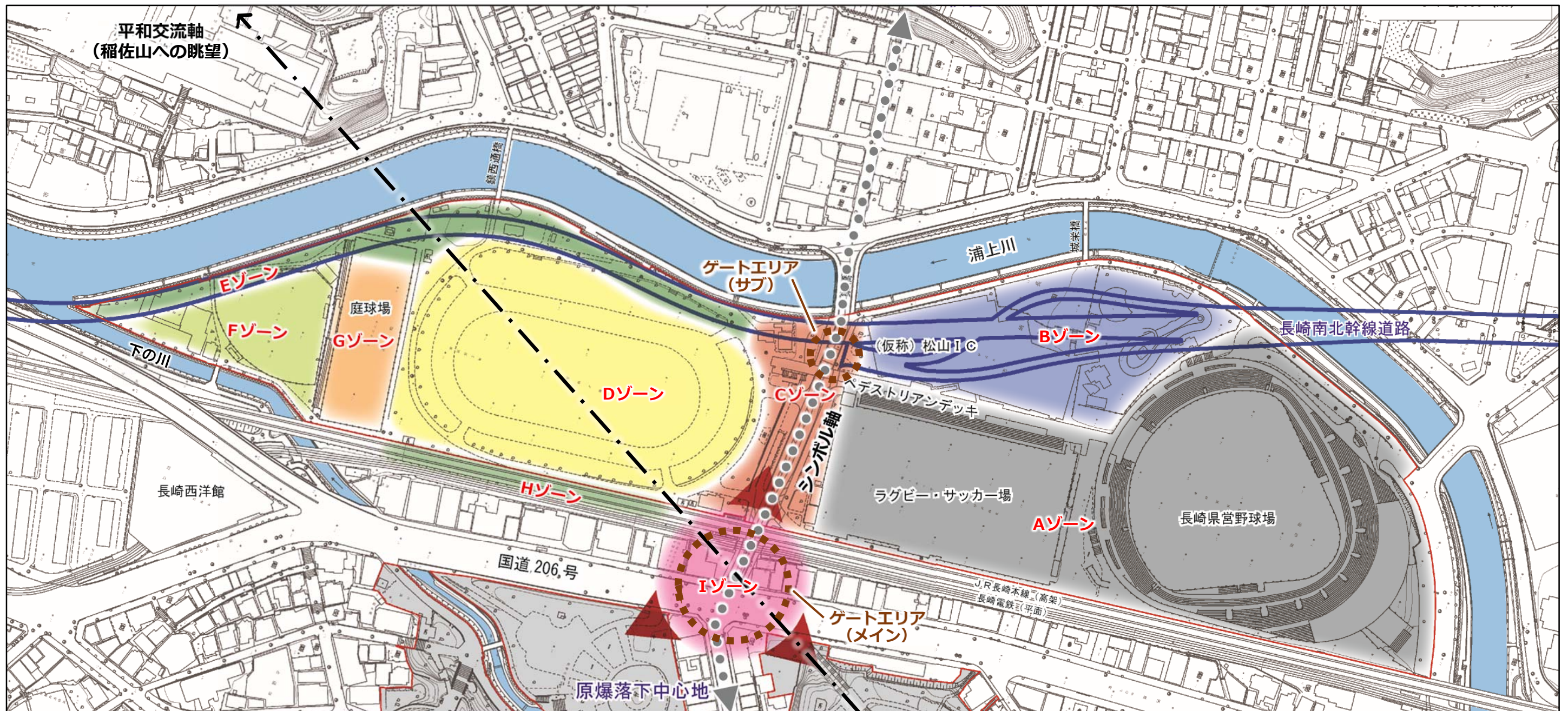
平和公園(西地区(運動公園ゾーン))においては、市民がスポーツやレクリエーション、憩いの場として利用する空間を、ゆとりと潤いのある憩いの広場として緑化を図るとともに、建築物の高さ基準を設けることにより、稲佐山の印象的眺望を確保し、平和交流軸をより際立たせる景観形成を図ることとしている。

(2) 景観形成の考え方(案)

基本的な考え方

平和公園(西地区)が有する2つの軸(平和交流軸・シンボル軸)をより際立たせるとともに、心身への活力や安らぎをもたらす「自然性」と、市街地の活動的な「都市性」とが調和する、魅力的な公園景観を形成する。

「軸性」の表現	「自然性」の表現	「都市性」の表現
<ul style="list-style-type: none"> ● 平和交流軸 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平和交流軸を意識した建築物や空間の整備 ● シンボル軸(市道松山町線) <ul style="list-style-type: none"> ・ 統一された舗装や並木、案内サイン等による象徴的な通りの形成 ・ 東西地区をつなぐゲートエリア(メイン)としての解放感が感じられる空間の創出 ・ (仮称)松山ICからの来訪者を迎え入れる新たなゲートエリア(サブ)としての解放感が感じられる空間の創出 ・ 電線類地中化による眺望景観の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷地のスケールを活かした空間の形成や、連続性が感じられる緑豊かな景観の形成 ● 浦上川沿いの水辺への眺望や親水性が感じられる水辺景観の形成 ● 土、石、木材など自然素材を活用した景観の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高架道路や再整備するスポーツ施設は、公園に溶け込み、違和感が感じられないような設え ● 開放的でゆとりを感じられる高架下空間の形成 ● スポーツやレクリエーションなどを通して人々の交流や賑わいが感じられる空間の創出 ● シンボル軸(市道松山町線)と周辺のゾーンとのシームレスな空間の創出



3 緑化の考え方(案)

新規作成

(1) 平和公園(西地区)における緑化の現状

平和公園(西地区)の現状

- 西地区は、東地区に比べ施設量が多く制約があることもあり、東地区に比べ緑量は少ないものの、陸上競技場外周や浦上川沿い、市道松山町線沿いを中心に配植されている。
- また、市道松山町線沿いには花壇も数か所設置されている。
- 既存樹木のうち、樹種としては「クスノキ」が圧倒的に多い。
- 長崎南北幹線道路やスポーツ施設の再配置により、多くの樹木が支障することとなる。

イチョウ、クスノキ、ヤナギ
 クスノキ、イスノキなど
 クスノキ、カシノキなど
 イチョウ、クスノキ、ヤナギ
 サクラ、カイズカイブキなど
 クスノキ
 イチョウ、サクラなど
 イチョウ、カイズカイブキなど
 クスノキ
 イチョウ、クスノキ、ヤナギ
 花壇
 花壇(公共花壇デザイン表紙)
 イチョウ、クスノキ、ヤナギ
 ツツジ、カシノキ、クスノキ、クロガネモチなど

3 緑化の考え方(案)

新規作成

(2) 緑化の考え方(案)

基本的な考え方

① 季節や多様性が感じられる「平和の森」づくり

- 西地区を包み込むような連続したまとまりのある緑地帯を配置することを基本とし、四季折々の花木による植栽や、公園やその周辺の自然環境と調和した多様性が感じられる植栽により、来園者へ安らぎと潤いをもたらす空間を形成する。
- 市道松山町線沿いは、統一された並木等により象徴的な空間を形成するとともに、エントランス空間など要所要所には、アクセントとして花壇を配置し、公園への彩を添える。

② 安全・安心が感じられる「平和の森」づくり

- 高架道路や鉄道高架施設などの周辺には施設本来の機能を阻害することなく、安全性（見通し）の確保や維持管理にも配慮しつつ、必要な緑量を確保していく。
- まとまった敷地を有するDゾーン周辺や施設周辺には、災害時に有効な防火性や耐火性に配慮した樹種・配植を検討する。

③ 時間とともに育てていく「平和の森」づくり

- 支障する樹木については、公園内の他の場所への移植を基本としつつ、新たに植樹する際には、幼木植栽を併用した植栽計画について検討する。併せて、市民参加による樹木の手入れや花壇の整備など、市民に親しまれ、ともに育てていく環境づくりについても検討する。

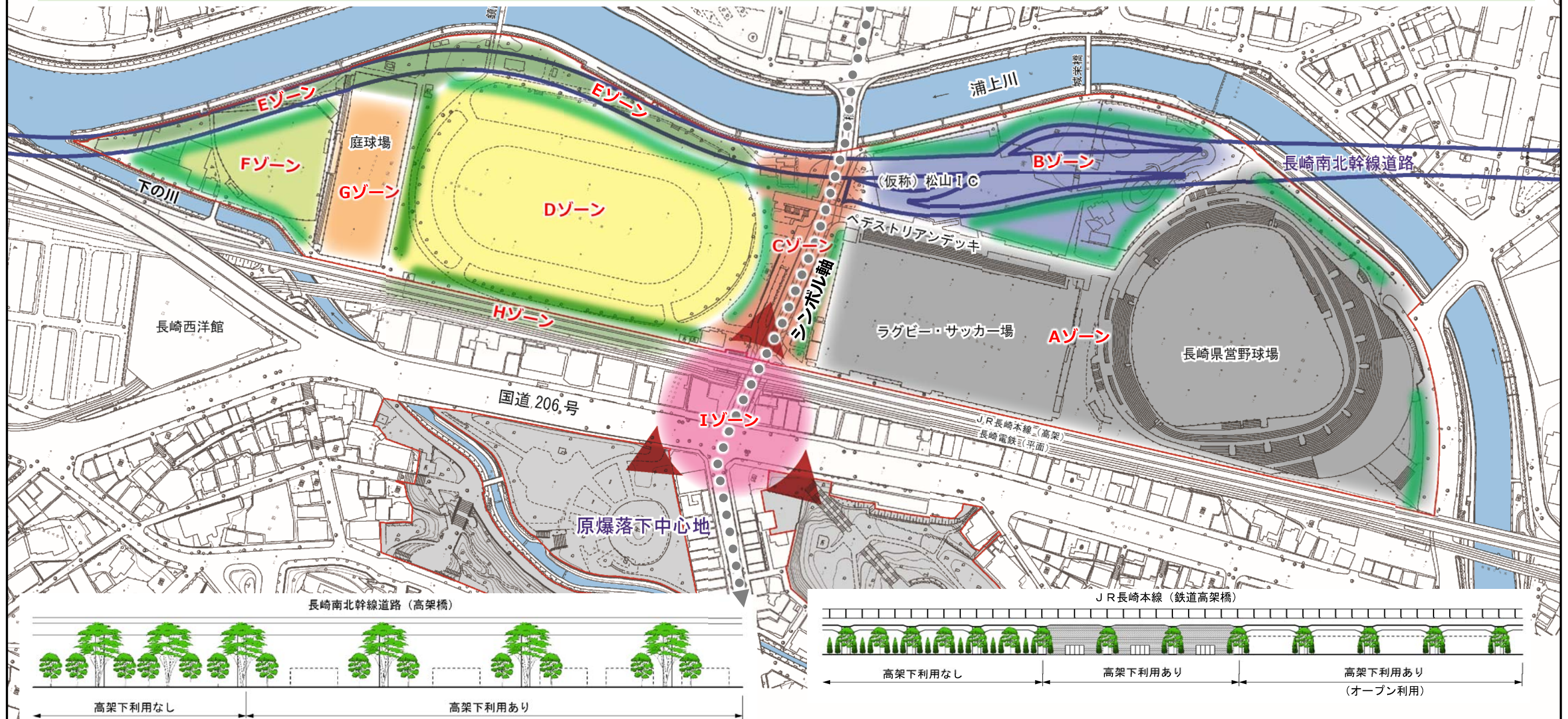


図 長崎南北幹線道路 側面イメージ図

図 JR長崎本線鉄道高架施設 断面イメージ図